

愛光会だより

第107号

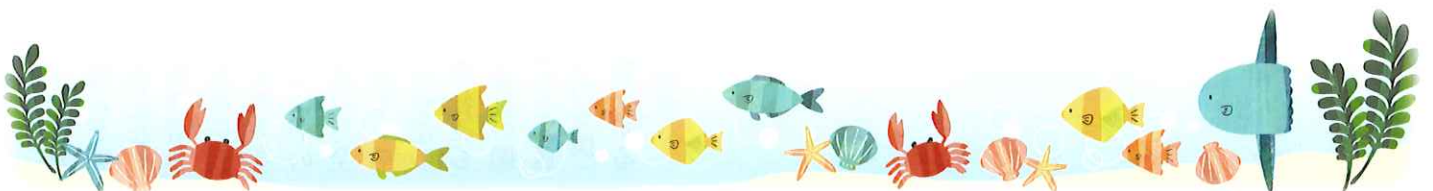
桜島学園 和光学園
総合サポートセンター ラン
令和2年8月1日発行

桜町学園 フレンドリーホームいいぐま
おひさまキッズ 福祉総合相談支援センター あい
発行・編集 社会福祉法人 愛光会
鹿屋市海道町729番地6 TEL 0994-46-2821
FAX 0994-46-2825
<http://www.aikohkai.com/>



【桜島学園】

宮下恒輝君（高校一年）が牛根大橋を描き、鹿児島県児童養護協議会絵画コンクールで金賞を受賞しました。



「新型コロナウイルスと共に」 （ある老兵のつぶやき）その四

社会福祉法人愛光会 理事長 指宿 興一

「残暑お見舞い申し上げます」と例年ご挨拶申し上げます。

しかし、今年の夏は「新型コロナウイルス」の予防と拡大阻止のために昼夜を問わず奮闘されている皆様方、とりわけ感染による身の危険も顧みず、感染予防とその医療を提供されている関係者、関連福祉関係従事者に対して深い敬意と多大な感謝をもって、残暑お見舞い申し上げます。」とご挨拶申し上げます。

令和元年十一月頃、中国武漢地域において発生したとされる新型コロナウイルスによる未知の感染症は、令和二年四月には瞬く間に中国全土、日本、韓国等アジアを汚染し、アメリカ、ヨーロッパ、全世界に拡大しました。各国は三月から五月にかけて「ロックダウン」いわゆる都市封鎖を含む強力な感染拡大防止対策を実行しました。日本では、令和二年四月七日、新型インフルエンザ等対

策特別措置法に基づき東京都、大阪府、他五県を対象に四月七日から五月六日までの一か月間、感染予防の徹底や外出自粛等を要請する「緊急事態宣言」を発令しました。さらに五月四日、全国に対象地区を拡大して、五月末日まで延長しました。その結果、感染拡大にある程度の歯止めがかかったとして、世界の各国は五月から感染防止政策を段階的に緩和しています。日本でも五月二十五日「緊急事態宣言」を解除しました。

それでも六月末日における世界の発生状況は、累計感染者数一千万人を超え、日本では東京、大阪、北海道、福岡県を中心として感染が拡大し、七月には、累計感染者数二十万人を超えました。鹿児島県でも三月二十六日、初めて一名の方が感染して、六月十七日において累計感染者は十一名と感染の拡大を防いできました。しかし、七月一日鹿児島市での一

名の感染を皮切りに大クラスターに拡大して、七月十四日時点で百四十二名を数えています。鹿児島市と周辺の市町でも数名が感染して関係機関がその対応に追われました。このように、その脅威が目を追って身近に迫っており、終息への道筋は全く見通せません。この新型コロナウイルスは未知のために現時点で効果的な治療法やワクチンがなく、人間の免疫力に期待するのみで、感染力はそれほど強くはなく、基礎疾患を持つている人、高齢者が感染すると肺炎等を併発して重症・重篤となるケースが多発しています。このために病院もさることながら介護施設・障害者施設等で大規模なクラスターが発生すると確実に「医療崩壊や介護・支援崩壊」を引き起こし、地域社会を含めて悲惨な状況となったケースが数多く報告されています。

全と生命を守ること、関係地域への拡大防止のためには不十分と判断し、より徹底した具体的対策を実行するために「新型コロナウイルス感染防止緊急基本対策要綱」を三月十一日に定めました。その当面の基本理念は、「新型コロナウイルスとの共生」とし、「ソーシャルディスタンスングの確保」といわれる密閉、密集、密接の「三密の回避」を生活習慣の一部とするこ

とによって、感染リスクを限りなく少なくすることです。さらにもし感染したら症状に応じた段階的な「医療的隔離プラ

ン」を完全に実行します。つまり愛光会の利用者と職員が感染、若しくは濃厚接触者になった場合は、愛光会各事業所を感染者と濃厚接触者及びその介護支援員等をそれぞれ完全隔離状態とするともにその地区への感染拡大防止に万全を期したいと考えています。そのためには、効果的な治療法の確立やワクチンの製造普及もさることながら医療、福祉の関係者への「優先的検査」と「医療的隔離体制の構築への支援」を第二波、第三波が襲来する前に関係機関に切望します。

「必要経費活動」を維持することが世界の共通認識となってきました。「愛光会」における従来の感染症対策では、利用者、役員とその家族の安

「医療介護崩壊」を防ぎながら「必要な経済活動」を維持することが世界の共通認識となってきました。「愛光会」における従来の感染症対策では、利用者、役員とその家族の安



「就任の挨拶」

総合サポートセンター ラン
施設長 松元 洋和

暑中お見舞い申し上げます。

令和二年四月一日付けをもちまして、「総合サポートセンター ラン」の施設長職を拝命致しました。施設長としての重責を担うことになり、身が引き締まる思いです。今回副施設長には、鶴ヶ崎貴洋氏が就任しました。今後を見据え、当事業所内での新たな協力体制の構築、また現在行っている支援技術の向上のための内部研修や外部研修を充実させるなど、より良いサービスが提供できる体制作り職員一丸となって邁進していきたいと思っております。

保護者様、県当局、関係機関、地域の皆様には、これまで同様の温かいご理解とご指導を賜りますようお願い申し上げます。まだまだ厳しい暑さが続きます。より一層のご自愛をお祈り申し上げます。



「あいさつの四ヶ条」

桜島学園
副施設長 福留 将浩

四月の職員会で園長より

令和二年度職員目標として、「しっかりと挨拶をしましょう」「よく話し合いをしましょう」「相手を思いやりましょう」が掲げられました。どれもごく当たり前のことですが、当たり前のことをしっかりとすることの大事さを感じています。今回この三つの目標の中で、挨拶について考えてみました。挨拶はコミュニケーションの第一歩ですが、「あいさつの四ヶ条」があるそうです。

- 「あ」明るく、温かく
- 「い」いつでも、誰にでも
- 「さ」先に進んで
- 「つ」続けて、次の言葉を

この四ヶ条を実践している「あいさつ上手」な人ほど愛される、好感度が高い人に共通してできていることが挨拶だそうです。

お笑いタレントの松村邦洋さんは、芸能界で礼儀正しいと評判だそうです。その松村

さんのモットーは「挨拶にスランプなし」だそうです。仕事の出来不出来は仕方ないけれど、挨拶は自分で心がけてい

たら必ずできるのでスランプはないということですね。そんな松村さんは、大袈裟でコミカルなものまねをしても許してもらえそうです。桜島学園でも、とても気持ちよい挨拶をする職員がいます。明るく、はつきりとした声で、相手の方を向いて、笑顔で挨拶をします。四月に入職した新任職員ですが、皆がこのような挨拶ができるようになったら、「素敵な笑顔が集まる場所」になると思います。

コロナ禍で七月に入り、とうとうクラスターが発生してしまいました。この愛光会だよりが皆様のお手元に届く頃は、どのような社会になっていくか全く分かりませんが、新しい生活様式で感染予防に努めながら、あいさつ四ヶ条を心がけて、前向きに日々を過ごしていきたいと思えます。



「寄り添うこと」

和光学園
副施設長 竹野 順子

この数ヶ月間、新型コロナウイルス感染対策を考える中で、今回利用者様に寄り添うということについて、改めて学ばせていただきました。

この未知なるウイルスに打ち勝つことは、非常に困難を感じています。私達もコロナ対策を実施する中で、まずは利用者様の安心安全の確保と、命を守るということを最優先として進めてきました。国の指針としての学校の休校及びステイホームの推進など示されたことにより、利用者様の外泊・外出・面会等の自粛をお願いせざるを得ない状況となり、約三ヶ月近くの日々が経過しました。

そのような中、いつしか利用者様の表情から笑顔が無くなり、動きが鈍くなっていく様子を目の当たりにした時、何かが違うと感じはじめたのは現場職員でした。今優先すべきことは命を守ることです。命を守りながら利用者様の心の声にどのように寄り添っ

ていくのか、そのバランスの難しさは当然この事業所でも悩んでいることでしょう。和光学園では、新型コロナウイルス感染症の対策について充分な説明に努めてきました。それに対し、「仕方ないね。」という利用者様の声に安心し、職員も利用者様と共に頑張つて今があります。利用者様の心の声に伝えるべく、今できることがあはらずです。表情や仕草を見逃さず真摯に向き合うことで、見えてくるもの、通じるものがあると思います。心に寄り添う気持ちと姿勢を忘れず、一緒に乗り越えていきたいと思えます。



「新型コロナウイルス感染症予防対策について」

桜町学園

副施設長 福丸 義弥

令和二年四月一日付けで桜町学園副施設長職を拝命致しました。至らない面が多く、皆様にご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

さて、昨年の十一月頃に中国武漢地域において発生した新型コロナウイルスによる感染症は、瞬く間に中国全土、全世界に拡大し、日本でも岩手県を除く四十六都道府県で感染者が確認されるなど大きな影響を与えています。未知のウイルスということでワクチンもなく、治療法も確立されていない為、免疫力の低い高齢者や基礎疾患のある方が感染すると肺炎を併発して重症、重篤となるケースが多発し、現在も世界的な脅威となっています。

そのような中、当法人では、新型コロナウイルス感染症対策本部を立ち上げ、各事業所の担当を中心に緊急基本対策要綱の策定、発生時の対応フロー表の作成などを行ってきました。緊急事態宣言下では、担当者が

集まって話し合いをすることが困難であった為、リモートでの会議を行うこともありました。特に重度・高齢の方が多く生

活されている桜町学園では、厳重な対応が求められますが、消毒や換気等による予防策の徹底、小人数での活動、外出や面会の自粛のお願い等を、対策本部の策定した資料に基づき実施しています。また、肝属地域や学園内に感染者が確認された場合を想定し、定期的にシミュレーションを行うなど、いざという時の為に職員一同で取り組んでいます。

全国的な感染拡大傾向が落ち着いていく中、居酒屋や娯楽施設の営業再開、他県への移動自粛の緩和等が行われており、当法人においても段階的に制限を緩和していく方向ですが、コロナウイルス感染症拡大前の生活に戻るには、まだまだ時間がかかりそうです。厚生労働省が示している新しい生活様式を意識しながら、利用者様の安全と生命を守ることを第一に考え、取り組んでいきたいと思えます。

利用者様、保護者様におかれましては、自粛期間が長く続き、大変心苦しい限りですが、ご理解ご協力のほど宜しくお願い致します。

「就職面談会」

フレンドリーホーム いいぐま

副施設長 山下 清治

今まで、幾つかの就職面談会に人材確保の目的で、参加させていただきました。

私のイメージでは、就職面談会は静かな雰囲気の中、一人一人の来訪者がブースに呼ばれ、各事業所と面談を行うものと思っていたのですが、全く違うものでした。

多い所では、百を超える参加法人があり、会場の中は、医療・介護・障害の事業所がホールの中にぎっしりとブースを構え、職員二〜三名の体制で来訪者を待っていました。初めての私は、会場の様子を圧倒されたのを思い出します。

一番目を引いたのが各ブースの華やかさでした。事業所名の入ったのぼり旗を立て、法被を着た職員がパンフレットを配って来訪者へ声をかけていきます。まずは、自分のブースにいかにか座ってもらい事業所の説明を聞いてもらえるかが最優先で、どの職員も熱意に溢れ、必死に取り組んでいました。

黙って座っていても誰もブースには近寄ってもきません。どの事業所も独自の手法で、来訪者を呼び込む努力で初めて面談のチャンスが生まれてきます。中には、面談のチャンスもない、来訪者が誰も来ないブースもあると聞きます。幸い当法人は、数名の方に説明を聞いていただけのチャンスももらいましたが、今現在就職までには至っておりません。改めて人材確保の難しさを感じているところで、しかし、就職面談会への参加で得たこともたくさんあると思います。生で感じた面談会での積極的な各法人のアピールの仕方、貴重な体験を生かして、今後も引き続き参加できればと思っています。

また、今後のコロナ禍の影響で、社会全体の就職事情が不透明な状況ではありますが、法人の積極的な情報提供の発信に努め、創意工夫しながら人材確保に取り組んでいければと思います。



「コロナ禍による 初めての自粛生活」

総合サポートセンター ラン
副施設長 鶴ヶ崎 貴洋

七月初旬、鹿児島県内では記録的な豪雨となり、鹿屋市や他市町村でも観測史上最大の猛烈な雨が降りました。総雨量も平年の七月一カ月分の二倍を超えた所もあり、各地の河川では氾濫危険水位に達した所や避難指示・勧告も発令され、県内のみならず九州、全国各地にまで広がり甚大な被害をもたらしました。ここに、今回の豪雨により被災された皆様が、一日も早く元の生活に戻るよう心よりお祈りしお見舞い申し上げます。

さて、今年は私の楽しみの一つでもありましたスポーツイベント、東京2020オリンピック・パラリンピックや、本県で四十八年ぶりに開催される燃ゆる感動がごしま国体・燃ゆる感動がごしま大会が、新型コロナウイルス感染拡大の影響により延期となった他、各イベント事が軒並み延期や中止となりました。残念な気持ちになりつつ、様々な部分



で自粛生活を余儀なくされた数カ月ではありますが、自粛生活では普段通りの事が自由に出来ない辛さと同時に、視点を少し変えることで新たな発見や行動に繋がる喜びも感じました。現状では、感染症に対する決定的な打開策が無く今後の先行きが不透明な状況ですが、今起きている事を嘆くよりも物事をポジティブに捉え、政府が提言する三密を避け、新しい生活様式を取り入れ、その先には必ず新しい光が射す事を信じ、前進していきたいと思えます。

最後になりますが、本年四月より総合サポートセンターラン副施設長職を拝命致しました。利用者様の声に耳を傾け寄り添い、より良いサービスを提供できるよう鋭意努力していく所存でございます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

「今、できること」

福祉総合相談支援センター あい
副施設長 古川 泰賀

暑中お見舞い申し上げます。本年は、例年より猛暑が予想されておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、連日のようにメディア等で取り上げられている「新型コロナウイルス感染症」。

二〇一九年十二月に中国で初めて感染が確認されてから世界中で猛威を振るっており、日本では、二〇二〇年一月頃から感染の地域が広がり始め、今年の六月までに一万七千人超の感染者が出る状況となりました。感染する不安やリスクを抱えながら、感染者の回復治療に奮闘されている医療関係者の方々に於きましては、頭の下がる思いであります。

感染拡大の予防には、国民一人ひとりの意識が大切です。政府の推奨する三密（密集、密閉、密接）にならないよう心掛けながら、日常生活で意識的に取り組んでいきたいと思えます。

ここで一つ紹介をさせてい

たきます。

みなさん「ヘルプカード」というものをご存じでしょうか？「ヘルプカード」は、障害などで困っている人が、周りに支援を求めするためのカードです。

相手に配慮してほしいことや手伝ってもらいたいことをカードに記入し、いざというときに提示することで「支援が必要な人」と「支援ができる人」をつなげることが出来ます。日常的にちよつと手助けがほしい、緊急時（道に迷った、パニック、発作）、災害が発生したとき、避難生活が必要などとき等、様々な場面で活用できます。

配布の対象者は、義足や人工関節を使用している方、内臓障がいや難病の方、妊娠初期の方など、外見から援助等が必要なことが分からない方、日常生活や災害時において配慮や支援を必要とする方となります。障害の有無、障害者手帳の有無は問いません。

携帯方法としては、カバンにつけたり、財布に入れたりする等、御自身が伝えやすい方法で携帯すると良いそうです。ヘルプカード配布の有無、

配布場所は自治体ごとによって異なるため居住されている市区町村に問い合わせをしていただけたらと思います。

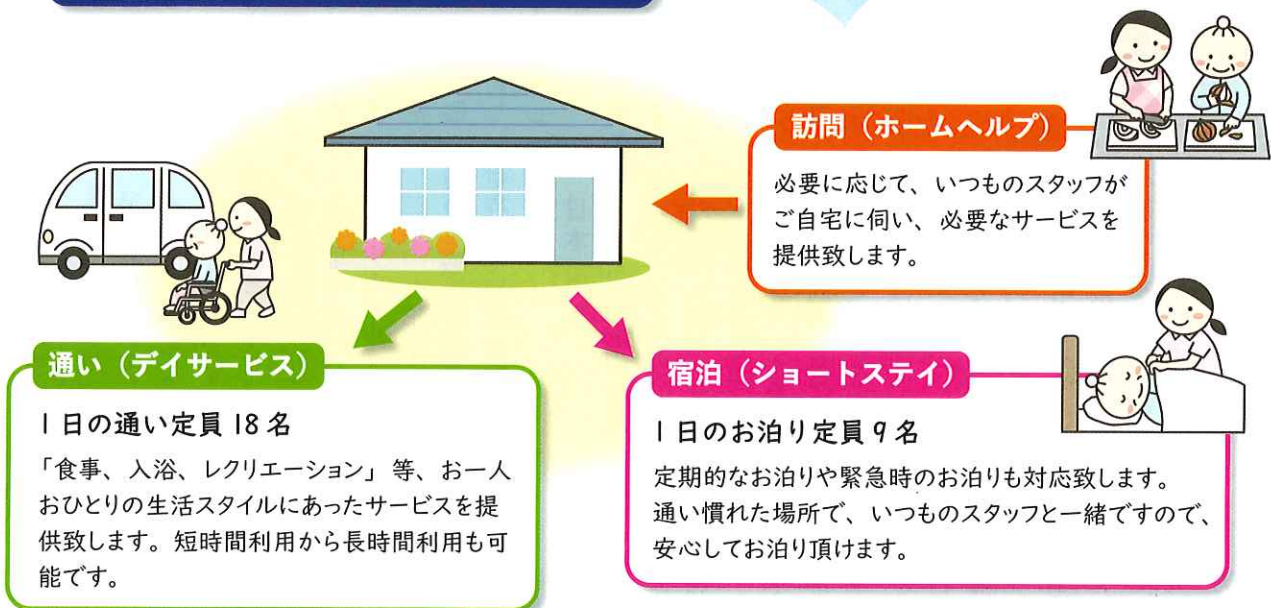
最後に、これまでとは違った生活様式が求められていますが、一日も早い収束と皆様のご健康を心からお祈り申し上げます。



吾平地区に、高齢者向けサービスの 「小規模多機能ホーム あいわ」 を開設します!

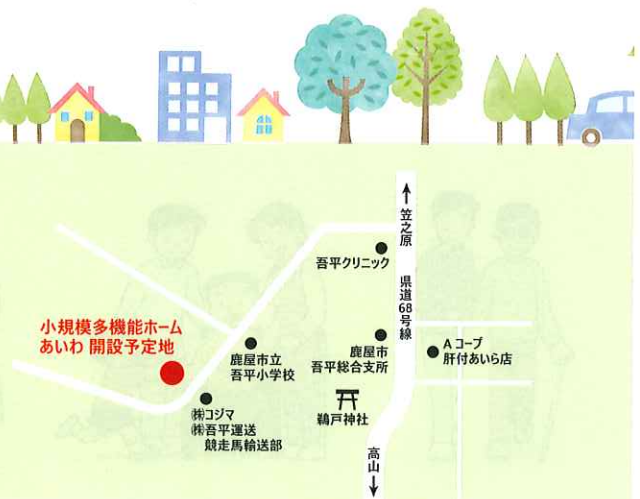
社会福祉法人 愛光会では、令和2年10月に吾平地区に於いて「小規模多機能型居宅介護事業所」を開設する予定です。地域共生社会の実現に向け、吾平地区の皆様と交流を図りながら、地域に根差したサービスの提供を目指します。

小規模多機能型居宅介護とは？



高齢者（原則 65 歳以上の介護認定を受けた方）を対象にした介護保険サービスです。
一つの同じ事業所に、「通えて」・「泊まれて」・「自宅に来てもらって」、それぞれのサービスを 24 時間・365 日、同じ顔馴染みのスタッフが提供し、慣れ親しんだご自宅での生活の継続を支援します。
また、料金は月毎の包括料金（定額料金）で安心です。

社会福祉法人 愛光会
小規模多機能型居宅介護事業所
小規模多機能ホーム あいわ
(開設予定地)
〒893-1103 鹿屋市吾平町麓字宮上 3635 番 1
お問合せ
TEL 080-6585-3691 (開設準備室)



社会福祉法人 愛光会 平成31年度収支決算報告書

資金収支計算書 第1号第1様式

社会福祉法人 愛光会
法人全体

(自平成31年4月1日 至 令和2年3月31日(決算))

単位：円

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)
事業活動による収支	収入			
	介護保険事業収入	4,650,000	4,354,350	295,650
	児童福祉事業収入	203,050,000	202,550,083	499,917
	就労支援事業収入	9,292,000	9,244,163	47,837
	障害福祉サービス等事業収入	863,923,000	857,529,281	6,393,719
	経常経費寄附金収入	1,680,000	1,523,800	156,200
	受取利息配当金収入	46,000	14,911	31,089
	その他の収入	10,365,000	9,949,416	415,584
	事業活動収入計(1)	1,093,006,000	1,085,166,004	7,839,996
	支出			
	人件費支出	852,313,000	844,319,049	7,993,951
	事業費支出	174,649,000	166,164,698	8,484,302
	事務費支出	70,494,000	60,234,823	10,259,177
	就労支援事業支出	9,292,000	8,320,347	971,653
支払利息支出	384,000	383,807	193	
その他の支出	2,650,000	2,641,487	8,513	
事業活動支出計(2)	1,109,782,000	1,082,064,211	27,717,789	
事業活動資金収支差額(3) = (1) - (2)	-16,776,000	3,101,793	-19,877,793	
施設整備等による収支	収入			
	施設整備等補助金収入	34,227,000	626,500	33,600,500
	設備資金借入金収入	50,000,000	0	50,000,000
	固定資産売却収入	87,780,000	0	87,780,000
	施設整備等収入計(4)	172,007,000	626,500	171,380,500
	支出			
	設備資金借入金元金償還支出	2,760,000	2,760,000	0
固定資産取得支出	188,149,000	14,712,040	173,436,960	
施設整備等支出計(5)	190,909,000	17,472,040	173,436,960	
施設整備等資金収支差額(6) = (4) - (5)	-18,902,000	-16,845,540	-2,056,460	
その他の活動による収支	収入			
	積立資産取崩収入	9,256,500	9,377,600	-121,100
	その他の活動による収入	2,804,000	2,752,783	51,217
	その他の活動収入計(7)	12,060,500	12,130,383	-69,883
	支出			
	積立資産支出	15,070,000	14,904,125	165,875
	その他の活動による支出	1,152,500	1,075,912	76,588
その他の活動支出計(8)	16,222,500	15,980,037	242,463	
その他の活動資金収支差額(9) = (7) - (8)	-4,162,000	-3,849,654	-312,346	
予備費支出(10)	5,100,000	0	5,100,000	
当期資金収支差額合計(11) = (3) + (6) + (9) - (10)	-44,940,000	-17,593,401	-27,346,599	
前期末支払資金残高(12)	719,363,070	719,363,070	0	
当期末支払資金残高(11) + (12)	674,423,070	701,769,669	-27,346,599	

詳細はホームページをご覧ください。
また、各施設、事業所でも閲覧出来ます。

コロナ対策について

感染防止策

新型コロナウイルス感染症は、人から人への感染があり、飛沫、接触により感染が広がっていきと考えられています。飛沫感染とは感染した人の咳・くしゃみ・つば・鼻水など飛沫（とびちったしぶき）の中に含まれているウイルスを口や鼻から吸い込むことにより感染することです。接触感染とはウイルスが付着した手指で鼻や口や目に触れることで、粘膜などを通じてウイルスが体内に入り感染することです。感染者がくしゃみや咳を手で押さえた後、その手で周りの物や場所に触れるとウイルスが付きます。特に手の触れやすいドアノブや色々なスイッチ、棚や押入の引き手、手すり

などは感染のリスクが高いと言えます。施設ではウイルスを持ち込まない事を目標に職員一同取り組んでおります。不要不急の外出自粛はもちろんの事、施設内での取り組みとして、職員のマスク着用、手洗いの徹底、環境消毒として施設内のアルコール消毒（1日2回）と換気を行い、利用者様への感染予防に努めています。今後とも「持ち込まない」「広げない」という感染予防の意識を持ち、利用者様の支援に努めていきたいと思っております。



靴箱の消毒



居室の消毒



プレイルームの消毒

健康で快適な毎日を過ごすために

梅雨入り後の暑さと湿った空気の影響で、ムシムシ・ジメジメとなる時期。気温と湿度が上がるこの時期以降、食中毒への注意が必要となります。

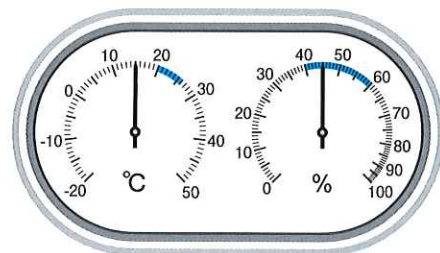
厚生労働省によると、国内では、去年1年間で1000件を超える食中毒が発生しており、そのうち3分の1を占める“細菌による食中毒”は、6～9月に集中していると言われております。食中毒を起こす原因は様々ですが、一番多いものが細菌やウイルスによるもので、全体の80～90%といわれています。腸管出血性大腸菌O-157などの食中毒の原因となる細菌は高温高湿を好み、温度25℃以上、湿度70%rh以上で増殖が活発になります。

また、誰もが気をつけたい風邪やインフルエンザのウイルスは低温低湿状態（概ね、温度15～18℃以下、湿度40%rh以下）を好む物が多く活動が活発になります。逆に、湿度の高い環境には弱く、増殖力や感染力を奪うことができます。

このように、日常生活ではあまり「数字」として気

にすることのない温度と湿度ですが、快適な毎日を過ごすためには温度と湿度の管理は欠かせません。

しばらく続く、高温多湿の日本の夏。新型コロナウイルスとの二重の対策をしっかりと行い、部屋の温度と湿度を知り、快適な生活環境をつくり、健康で快適な毎日を過ごしていきましょう。



防護服作成について

新型コロナウイルスの感染拡大にともない、5月には感染防護具が不足し始め、深刻な医療物資不足に陥っている状況がみられました。この時点でマスク75%、消毒用アルコール67%、ガウン・エプロン65%、感染防護服63%、フェースシールド・ゴーグル54%不足と、民間調査にて結果がある程度でています。

新型コロナウイルスは、初期症状は風邪と似ていると言われていています。発熱してから、しばらくは家(施設内)で様子を見る事も多い状況になりだすと、熱を出して寝込んでいる利用者様に食事を持っていく、着替えを手伝う、他様々な事で付き添う等、利用者様への直接支援の機会はたくさんできます。

施設内でのサービス内容から、完全な3つの密を避ける事が難しい所もあり、このような事から、職員や利用者様の感染リスクがとて高くなり、一気に感染

拡大につながる事も予測されます。

こうした事で、感染の予防に何かできないかと考え、手作りの防護服を愛光会にて製作を開始しました。コロナウイルスを持ち込まない事を前提に、万が一濃厚接触者がでてしまった場合を考え、施設内での感染拡大につながらない予防策の1つとして、また最小限に留める事を目的としながら、安全な防護服を作っています。



「最後に」

新型コロナウイルス感染症への対応で最も重要なポイントは、感染拡大防止とされています。福祉サービスを利用されている方々は、感染するリスク、重症化するリスクが高い場合があります。

そこで当法人で感染が発生してしまった、または濃厚接触者の対象者がいること等を想定し、対応準備を進めているところです。新型コロナウイルスに限っては、軽症者であれば入院はせず、施設内で療養となってくるのではと考えられます。そうなると施設内で療養を行うためには、非清潔区域と清潔区域を分ける(ゾーニング)ことが、感染拡大リスク防止につながり、利用されている方への感染も防げる対応の1つではと考えます。今後も既存の建物・設備から考察して、愛光会全体で感染防止に取り組んでいきたいと思ひます。

平成31年度 社会福祉法人愛光会各施設等における人権擁護推進及び相談・苦情等の受付状況

【対象期間】平成31年4月1日～令和2年3月31日

施設及び事業所名	種別	月別受付状況												合計	内容別受付状況(再掲)										平成31年度中未解決件数
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		人権侵害に関する件	物品購入に関する件	外出に関する件	病気にに関する件	給食に関する件	利用者に関する件	家族に関する件	福祉サービスに関する件	その他	合計	
桜島学園	児童養護施設							2		2	1			5	1					2			2	5	0
和光学園	障害児入所施設・障害者支援施設			2	1		6	2					2	13		1	3			6	3			13	0
桜町学園	障害者支援施設	2	1	1	2	2	1		1	1	1	4	16		4	1	3		6			2	16	0	
フレンドリーホームいいぐま	障害者支援施設	2			1	2	1		3	3	1	17	30		3	15		11			1		30	0	
総合サポートセンターラン	障害福祉サービス事業	4	2	3	2	3	4	3	1	2	3	3	33	1	10	3	4	1	2	3	9	1	34	0	
おひさまキッズ	児童発達支援事業	3	1	1	1	1					2	4	13					8			5		13	0	
福祉総合相談センターあい	障害福祉サービス事業												0										0	0	
合計		11	4	7	7	8	12	7	5	8	8	3	30	110	2	18	22	7	12	24	6	15	5	111	0
受付の処理状況再掲	解決件数	11	4	7	7	8	12	7	5	8	8	3	30	110	2	18	22	7	12	24	6	15	5	111	0
	未解決及び処理継続中												0											0	
	内第三者委員会への報告										1		1											0	
	内第三者委員を交えての話し合い件数										1		1											0	

※総合サポートセンターランの前年度未解決分を含む。

寄贈一覧 (R 1.12. 1～R 2. 6.30)

和光学園

- 鹿屋市社会福祉協議会様
- (株)新生社印刷様
- 鹿児島県共同募金会様
- 山元 ひとみ 様

桜島学園

- 日本児童養護施設財団様
- 株式会社ジェイ・ストーム様
- (有)ダスカジャパン様
- ライオンズクラブ国際協会 鹿児島リジョン様
- 鹿児島ライオンズクラブ様
- 谷山ドッジボールクラブ様
- 株式会社 たかくら新産業様
- 日本PTA全国協議会様
- ユーコーラッキー様
- 高德 萌花 様
- 打越 政継 様
- 田上 月美 様
- 牛込 あゆみ 様

各施設新職員の紹介



桜島学園 児童指導員 新地 智浩

見た目と体力は歳相応ですが、気持ちは二十代のつもりで、少しでも皆さんのお力になれるよう、日々精進してまいります。子どもたちも学習面を中心に、それ以外でも頼ってもらえるような関係を築いていきたいと考えております。



桜島学園 児童指導員 田原 郷史

新しい発見の毎日です。子どもたちと共に日々成長していけるよう頑張ります。よろしく願います。



桜島学園 保育士 東 貴美香

分からないことばかりで一からのスタートですが、子どもとの関わりを通して、自己肯定感や自主性が高められるような声掛けや、スキンシップを大切にしていきたいと思っております。



桜島学園 事務員 藤崎 由真

分からないことばかりですが、何事にも笑顔で取り組んでいけるよう頑張ります。また、子どもたちともふれ合い、楽しい日々を過ごしたいと思っております。



和光学園 非常勤生活支援員兼事務員 永野 智子

四月から和光学園で働かせていただいております。コロナで大変な中温かく迎えていただき、早く役に立てる様、頑張ります。宜しくお願いします。



和光学園 児童指導員 渡邊 佳佑

四月から児童部に配属された渡邊佳佑です。三ヶ月目でまだまだ至らぬ点がありますが一生懸命頑張っていきたいと思っておりますのでよろしく願います！



和光学園 生活支援員 福盛 由夏

五月より生活支援員として働くことになりました。右も左も分からず、気の抜けない毎日ですが、頼もしい先輩方の手助けやアドバイスを貰いながら頑張っていきたいと思います。宜しくお願いします。



桜町学園 生活支援員 古川 隼己

五月より生活支援員として働かせていただいております。毎日学ぶ事が多く必死ですが、先輩方に助けていただきながら多くの事を学び、利用者様の為の支援を心掛けていきたいです。



桜町学園 生活支援員 西園 良奈

六月から入職致しました。先輩方の親切で丁寧な指導のもと、日々学びながら楽しく働かせていただいております。これから経験することをお自分の成長の糧とし、また初心を大事にして利用者様から信頼を頂ける職員になりたいです。



桜町学園 生活支援員 中村 智子

五月一日より入職しました。先輩方に指導を頂きながら、利用者様が穏やかに過ごせるように支援していきたいと思っております。



桜町学園 生活支援員 長嶺 和枝

五月一日より入職致しました。先輩方に毎日優しく教えていただいたお礼です。早く利用者様の声に寄り添えるように、より良い支援が行えるように頑張りたいと思っております。



桜町学園 生活支援員 内村 真治

三月一日より勤務させていただいております。まだ慣れないことも多く、色々な事を教わりながら、日々利用者様の支援に当たっているところです。少しずつでも業務を覚え、利用者様の幸せの為に頑張っていきたいと思っております。



おひさまキッズ 保育士 田原 絵美

四月に入職し、四ヶ月が経ちました。子どもたち一人ひとりの気持ちに寄り添いながら丁寧な支援を心掛けていきたいと思っております。どうぞよろしく願って申し上げます。



フレンドリーホームいびぎま 看護師 堀口 亜希子

四月より、入職させていただきました。病院での経験が長く、施設での勤務は初めてで戸惑いも多いですが、皆さんのご指導を頂きながら頑張っております。



残暑お見舞い申し上げます。コロナ禍による、未曾有の社会情勢の悪化に伴い、皆様の生活にも大きな変化があったと思われませんが、如何お過ごしでしょうか。

昨年十一月、中国武漢市で確認された新型コロナウイルスは、今年二月には日本に上陸し、そして世界中で猛威を振るいました。

テレビでは連日、コロナの感染状況や大雨による災害のニュースが放送されており、今後、どうなっていくのだろうかと考えてしまうと、心配が絶えません。これまであたり前のようにならなくなってしまった日常が感染予防のため、不要不急の外出を控える必要があり、気軽に外出もできず、息苦しさを覚えてしまいました。

しかし、これもコロナの効果的な治療法ができるまでの辛抱です。今は辛い気持ちもあると思いますが、以前のようには皆様があん心して生活できるように、一緒に頑張っていきたいと思います。

